

恐竜 Dinosaurs



恐竜博物館

ニュース

第53号

2018.3.15

福井県立恐竜博物館

特集：恐竜博物館この一年のあゆみ ～2017年度恐竜博物館の動き

- 目次 ▼博物館トピックス「恐竜博物館この一年のあゆみ ～2017年度恐竜博物館の動き」… 2～4
▼2018年度特別展「獣脚類：鳥に進化した肉食恐竜たち（仮題）」紹介… 5
▼研究員のページ「恐竜博物館の楽しみ方Ⅱ」… 6～7
▼2018年4月～7月催し物案内… 8



ベルサウルス・スイ

Bellusaurus sui

竜盤目 竜脚形亜目 竜脚下目
ジュラ紀中期～後期
中国 新疆ウイグル自治区



恐竜博物館 この1年のあゆみ

2017年度 恐竜博物館の動き

「満足度UP!」の取組み

2015年、2016年度は2年連続で入館者数が90万人を突破し、2017年度も、おもてなしや利便性の向上を図ってさらに多くのお客様をお迎えするため、「満足度UP!」対策に取り組みました。

【主な取組み】

●「恐竜の日」の無料化

「恐竜の日（4月17日）」は観覧料を無料化

●営業時間の拡大

「9時から17時まで」を
「8時30分から18時まで」に拡大
期間：4月29日(土)～5月7日(日)
7月15日(土)～8月31日(木)
9月16日(土)～18日(月)祝
10月7日(土)～9日(月)祝

●屋外チケットカウンターの設置

(5月3日(水)祝～7日(日)、
7月14日(金)～8月31日(木)、
9月16日(土)～18日(月)祝、
10月7日(土)～9日(月)祝)



チケットカウンター

- 「恐竜卵化石発掘隊ひろば」の新設
(7月14日(金)～10月15日(日))
- 「福井ブランドショップ」の再開
(3月18日(土)～5月7日(日)の土日祝日)

(春休み、ゴールデンウィークは毎日)、7月14日(金)～8月31日(木)、9月2日(土)～10月15日(日)の土日祝日)

●屋外臨時ショップの開設

(5月3日(水)祝～7日(日)、
7月14日(金)～8月31日(木)、
9月2日(土)～10月15日(日)の土日祝日)



恐竜卵化石発掘隊ひろば



屋外臨時店舗

●カフェテラス「Dino」の再開

(7月14日(金)～8月31日(木)、
9月2日(土)～24日(日)の土日祝日)

スッポンの起源に関する論文を発表

当館研究員らの共同研究により、勝山市北谷町で発見された化石が世界最古のスッポンの化石であることを確認したとの論文が、4月13日(木)に古脊椎動物学会の学術誌において発表されました。また、このスッポン化石の標本を、4月20日(木)から5月7日(日)まで、3

階特別展示室「ほりたて恐竜化石速報展」において、一般公開しました。

野外恐竜博物館

開館4年目の野外恐竜博物館を、4月29日(土)祝に再開しました。5月5日(金)祝には開館以来の通算利用者数が10万人を突破し、11月5日(日)の営業終了までの間に、約3万8千人の方が利用され、通算の利用者数は、約13万5千人に達しました。

2018年度は、4月28日(土)から営業を開始する予定です。

- 期 間：2017年4月29日(土)祝
～11月5日(日)



恐竜化石発掘体験の様子



10万人突破記念セレモニー



人気No.1恐竜を決める 「恐竜ワールドカップ2017 ～恐竜総選挙～」の开票結果を発表

5月14日(日)に、恐竜総選挙の开票結果を発表しました。49日間にわたる44体の恐竜たちの熱い戦いの結果、第1位のティラノサウルスは11,084票、第2位のフクイラプトルは5,422票、第3位のフクイサウルスは4,868票を獲得し、ティラノサウルスの圧倒的な勝利となりました。

恐竜総選挙上位12位に入った恐竜たちは「恐竜博物館2018年版カレンダー」の各月を飾りました。

- 投票期間：3月18日(土)～5月7日(日)
- 投票総数：50,147票
- 開催期間中の入館者数：155,081人
- 投票率：32.3%



恐竜総選挙

長崎市との共同調査で発見された 鳥脚類の歯化石を発表

恐竜博物館が2013年から行っている長崎市との共同調査で鳥脚類恐竜(ハドロサウルス上科)の歯の化石35点が発見されたことを7月に公表しました。恐竜博物館では、発見された標



公表した長崎市産ハドロサウルス上科の歯化石

本の複製6点を、7月19日(水)から10月15日(日)まで展示しました。

ブラキオサウルスモニュメント の修復が完了

来館されるお客様をお迎えするため、国道416号沿いに設置しているブラキオサウルスの実物大モニュメントの修復が、2017年7月に完了しました。今回の修復にあわせて、ブラキオサウルスについて解説した銘板を新たに設置しました。

- 設置時期：2009年7月
- 設置場所：ロードパーキング恐竜街道の敷地内(勝山市荒土町布市：国道416号沿い)
- 大きさ：全長約12m、高さ約9m(台座含む)



ブラキオサウルスモニュメント

特別展の開催

2017年度特別展「恐竜の卵」を開催しました。今回の特別展では、国内で初めて恐竜の卵や巣をテーマとして、世界で唯一の大型オヴィラプトル類の胚化石「ベイビー・ルイ」をはじめ様々な恐竜の卵や巣およびそれらに関連する恐竜の骨格約110点を展示し、入場者は、一昨年度および昨年度に続き3年連続で20万人を突破(7



特別展「恐竜の卵」

日目)し、総入場者数は210,867人を記録しました。

また、開催期間中は、「かいけつゾロリ」が特別展の応援隊長として会場を盛り上げるなど、特別展にご入場いただいた方に、多くのイベントで楽しんでいただきました。

- 期間：2017年7月14日(金)
～10月15日(日) 94日間



特別展応援隊長「かいけつゾロリ」

第4次恐竜化石発掘調査

勝山市北谷町の発掘現場において、7月31日(月)から9月9日(土)にかけて、2017年度の第4次恐竜化石発掘調査を実施しました。同調査は、2013年からスタートし、今年度が5年目になります。今年度の調査では、約4,000点にのぼる脊椎動物化石が採集されるなど、多くの成果が得られました。

その成果として、新たに発見したヨロイ竜の歯の実物化石などを一般公開し、ヨロイ竜について紹介する企画展「鎧(ヨロイ)をまとった恐竜たち」を開催しました。

本企画展では、発掘調査で発見した恐竜化石など41点やヨロイ竜の全身骨格3体の展示のほか、子どもたちに大人気の絵本「おまいうまそうだな」シリーズの原作者宮西達也氏が当館で制作したアンキロサウルスなどのイラ



発掘調査現場

スト5点も展示しました。

【恐竜化石発掘調査】

● 期 間：2017年7月31日(月)～
9月9日(土)

● 調査地：勝山市北谷町杉山

【2017年秋冬企画展「鎧(ヨロイ)をまとった恐竜たち」】

● 開催期間：2017年11月17日(金)～
2018年1月21日(日)

● 開催場所：3階特別展示室



「鎧(ヨロイ)をまとった恐竜たち」

ゴビ砂漠 恐竜化石共同発掘調査開始

福井県立大学恐竜学研究所や中国科学院古脊椎動物・古人類研究所等とともに、2017年度から5年計画で、中国内モンゴル自治区などゴビ砂漠一帯において、恐竜化石発掘の共同調査を行うことになりました。

2017年度は、当館研究員も参加し、9月5日(火)から9月27日(水)の約3週間、中国内モンゴル自治区および吉林省延吉市で調査を行いました。

● 参加機関

日本側：福井県立大学恐竜学研究所、福井県立恐竜博物館

中国側：中国科学院古脊椎動物・古人類研究所、浙江自然博物館

クレジットカードと電子マネー対応の券売機の導入

国内におけるキャッシュレス化の浸透や海外からのお客様の増加などにより、クレジットカードや電子マネーの利用についてのお客様の要望が強いことから、お客様の利便性を高め、サービスの向上につなげることを目的に、2018年1月2日(火)から、新たにクレ

ジットカードと電子マネーが利用できる券売機を導入しました。



新券売機外観

年末年始特別開館

年末年始にふるさと福井に帰省された皆さんや旅行などで本県を訪れる皆さんに、国の天然記念物に指定された恐竜化石が福井県の宝であることを再認識していただくとともに、この情報をそれぞれの居住地にお持ち帰りいただき、広く発信していただきたいこと、年末年始の開館を望む声が多く寄せられていたことなどを勘案して、昨年より拡大して実施しました。

● 特別開館日：

2017年12月29日(金)・30日(土)、
2018年1月2日(火)



正月の装いの「フクイサウルス」

通算入館者数900万人突破

2000年7月14日の開館以来の通算入館者数が、2018年1月30日(火)に900万人を突破しました。通算入館者数が800万人から900万人に到達するまでに要した日数は479日となります。

また、より多くのお客様とご一緒にお祝いをしたいという思いから、2月4日(日)に、900万人突破記念セレモニーと先着300名様「恐竜福引き大会」を開催しました。



900万人突破記念セレモニー

アロサウルス 実物全身骨格標本の公開

恐竜博物館では、2015年10月に株式会社林原から恐竜の実物化石など全34点の標本を購入し、順次、常設展示してきました。今年度はその最終年として、大型肉食恐竜で人気のアロサウルスの実物全身骨格を常設展示することとし、2018年2月3日(土)から25日(日)まで組上げ作業等を公開しました。

なお、今回のアロサウルスの実物全身骨格化石の展示により、常設展示室に展示している恐竜の全身骨格44体のうち、実物化石は10体となります。



アロサウルス全身復元骨格組み上げ作業

大雪による臨時休館

1981年以来の記録的な大雪が福井県を襲ったことによる道路交通状況等の悪化を受けて、2月7日(水)から13日(火)まで臨時休館としました。



2月10日現在の恐竜博物館

(滝本博康、竹内 一)

鳥に進化した肉食恐竜たち (仮題)

2018年度の特別展では、恐竜の中でも特に人気の高い肉食恐竜に代表されるグループ「獣脚類」を中心とした展示を行います。展示は5つのセクションで構成し、「獣脚類の出現」、「羽毛をまとった獣脚類」、「食性の多様化」、「樹上から空へ」、「大空への飛翔」の順に、獣脚類の進化史全体を迎っていきます。

第1のセクションでは、獣脚類の出現から、地上の捕食者として台頭していく過程を追います。獣脚類は三疊紀後期に出現し、その後ジュラ紀に入ると、ケラトサウルス類やアロサウルス類など、大型の肉食恐竜が数多く出現しました。このセクションではその中でも代表的な種類をピックアップし、頭部の角が特徴的なカルノタウルスや、魚食に適応したバリオニクス、全長約10mにも達するメガラプトルなどの全身骨格を展示します。さらに、イギリス国外初公開となる大型獣脚類ネオベナートルの実物化石とともに、3Dスキャンおよびプリントで複製された全身骨格を、あわせて初公開します。



ネオベナートル全身骨格
(イギリス・ダイナソーアイル博物館)

第2のセクションでは、鳥類に受け継がれる羽毛を獲得したと考えられている獣脚類「コエルロサウルス類」の出現と初期進化を辿ります。ここでは、原始的なコエルロサウルス類の代表として、中国で見つかったズオロンやアオルン、そしてアルゼンチンで見つかったピセンテナリアなど、日本初公開となる化石や骨格を展示します。ま

た、白亜紀を代表する獣脚類であるティラノサウルス類もこのグループから枝分かれして出現します。中国国外初公開となるキアンゾウサウルスなどの展示を介して、もともと巨大ではなかった彼らがどのように最大級の肉食恐竜へと進化していったのか、その過程にも迫ります。



キアンゾウサウルス全身骨格 (中国・贛州市博物館)

第3のセクションでは、近年とくに発見が相次いでいる肉食以外の獣脚類に焦点をあてます。草食恐竜といえば、イグアノドンなどの鳥盤類やブラキオサウルスなどの竜脚形類を連想する人が多いと思いますが、実は獣脚類でも草食性のものがいたことが明らかになってきました。例えば、特に大きな前肢が印象的なテリジノサウルス類や、走行適応が著しいオルニトミモサウルス類などが有名です。その他にも、虫を専門に食べていたと考えられるものや、雑食と考えられるものも出現してきます。さまざまな食性に対応した多様なグループから選りすぐった代表的な獣脚類の骨格を展示しつつ、彼らの生存戦略に迫ります。

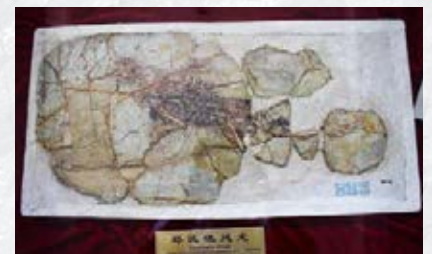


草食性獣脚類ベイピャオサウルス化石
(中国・天宇自然博物館)

第4のセクションでは、いよいよ鳥類の起源に近づき、樹上での生活に適応

したり、滑空による飛行を行ったりするパラヴェス類が出現します。ここでは、前肢に飛膜を持つ獣脚類イー・チーや、前肢だけでなく後肢にも翼を持ったミクロラプトルやアンキオルニスなど、日本初公開となる実物化石を数多く展示します。また、鳥類に近縁でありながら、地上の捕食者として進化したドロマエオサウルス類やトロオドン類も繁栄しました。彼らは比較的小型でしたが、中には全長6mにも達するアウストララプトルなど、大型のものがいくつか現れたことがわかっています。彼らの骨格から、姿や生態がどう変化していったのかを追っていきます。

最後の第5のセクションでは、羽ばたいて飛ぶことが出来るようになった鳥類とその直近の祖先に焦点をあわせます。「中国の始祖鳥」とも呼ばれたシャオティンギアや、羽毛の印象がとても美しいエオコンフキウソルニスなど、日本初公開の化石をここでも数多く展示します。また、新生代以降の鳥類も珍しいものを紹介します。鳥類としては最大の頭骨をもつ恐鳥類ケレンケンや、史上最大の翼開長をもつペラゴルニスなどの全身骨格を展示し、その後の鳥類の多様性についても少し触れていきます。



シャオティンギア全身骨格 (中国・天宇自然博物館)

獣脚類は、恐竜の中で唯一現在まで生き残っているグループです。その長い進化史には、非常に興味深い謎がたくさん眠っています。この夏はぜひ、特別展で獣脚類の魅力を再確認してください。

(服部創紀)



博物館



How to
Dinosaur

はじめに

人は探究心が旺盛な生き物です。そのことが、科学や芸術に止まらず、あらゆる分野にわたって新たな発見や創造を数多く生み出してきました。そこには必ずと言っていいほど驚きや感動、変化がともないます。今回紹介するものの中には、「だから、何なのだ!」と言われそうな、とても科学的とは思えないこともあります。そのようなことも、もしかすると新しい発想を導く発端になるかもしれないと思い、博物館ニュース第45号とは打って変わって今回は堅苦しいことを抜きにして、へえ~と考える博物館の楽しみ方を紹介したいと思います。

博物館は恐竜の中にある

5年ほど前、何気なく恐竜博物館の周辺の航空写真を見ていた時に、面白いことに気づきました。恐竜博物館が建っている長尾山の丘の緑と、その周りの田畑のコントラストの違いから、丘全体が不思議なことにまるで口を開



図1 航空写真では、丘の木々の緑が恐竜の頭のように見える。矢印は恐竜博物館

けた肉食恐竜の頭のように見えるではありませんか(図1)。博物館の先にあるティラノサウルス広場が、恐竜の目で、博物館はのどの奥にあたります。この偶然とは思えないような“素晴らしい演出”は誰がしたのでしょうか。まさに目に見えない何者かの粋な計らいのように思えました。

人面化石

20年ほど前になりますが、「人面〇〇」という言葉が流行った時期がありました。魚の頭頂部にある模様が人の顔のように見えることから「人面魚」などと言われ、その後「人面〇〇」という呼び方がほかの動物にも使われるようになりました。ところで、恐竜博物館の展示の中にも、人の顔のように見えてくる恐竜の糞化石があります(図2)。展示解説員の一人が気づいたようですが、私も言われるままにその化石を見ると、「なるほど」、彫が深く、まゆ毛、あごや口のひげ、髪の毛がモサモサで、外国人の彫刻を思わせるような顔立ちに見えました。私の脳がそのように認識したのでしょう。面白いです。

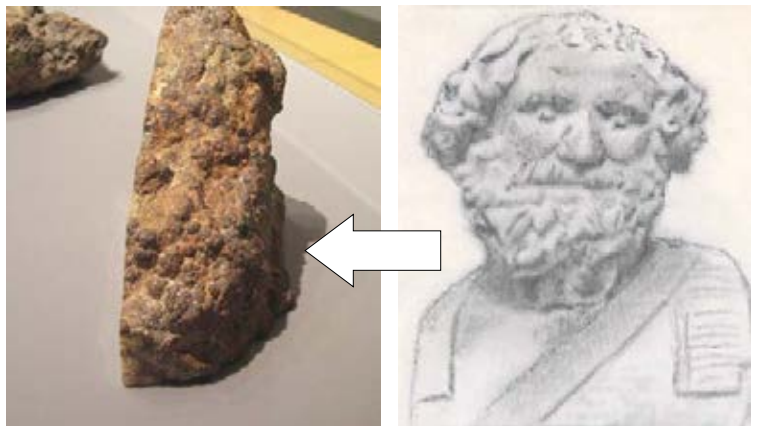


図2 人面化石：ギリシャ彫刻のような人の顔に見えませんか？

展示室に現れる太陽

展示室の奥にある壁画の空に突然現れる謎の光があります(図3)。記録では、秋の9月5日ごろから冬を通して、春の4月5日ごろまでの晴れた日に出現します。光の形は、その時々で変化し、ある時は丸、またある時は土星のように、またある時は四角かたりします。数も1つだけでなく、2つあったり、それがつながっていたり様々です。時間帯は午後2時ごろから4時ごろが多く、その継続時間は10分以内と短時間です。この現象は太陽の光が、3階入り口のガラスに反射し、さらに2階展示室を展望できるテラスを通してドームの奥の壁面に当たって起こるのです。ほんの一瞬しか現れない展示室の「太陽」を見ることができた方は、幸運かもしれません。



図3 展示室奥の背景画の上に現れる太陽



楽しみ方Ⅱ



ひそひそ話もご用心

展示室ではある場所で発せられた音や声がドームの壁に反射して、ドームの反対側の壁まで伝わって、別の場所で聞こえるという現象が体験できます(図4)。例えば、2階のアンモナイトの展示ケースの前で話している小声が、1階から2階へと向かうスロープの中ほどにあるイチョウの木あたりに、はっきりと聞くことができます。皆さんは、科学博物館や公園に行った時に距離を置いて向い合せになった2つのパラボラを見かけたことはありませんか。これは「パラボラ集音器」と言って、パラボラに向かってその中心で声を出すと、遠く離れたもう一方のパラボラの中心あたりにいる人にその声が届くのです。展示室ではこの原理が働いていると思われます。

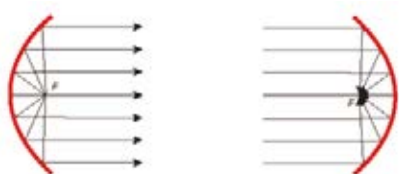


図4 パラボラの原理(上): 図のFは集音点と音が反射する不思議な内壁(下)

動く模型に驚き

動くと思っていたものが急に動くと、私たちはドキッとして思わず声を上げたりします。展示室の奥には今から1億6千万年ほど前の恐竜とかれ

らがくらししていた森を再現したジオラマがあります。そこにある巨大な草食恐竜のオメイサウルスは脇腹が膨らんだり凹んだりして呼吸しています(図5)。その動きはスロープから見ると良くわかります。また、動く模型は2階の「大森林が育んだ動物たち」のジオラマにもあります。ジオラマに向かって右端近くに「ディプロセラスピス」と言う頭が三角形の奇妙な両生類がいます(図6)。しばらく見ているとピクリと動きます。そのタイミングで運よく見る事ができた人のみが気づく演出です(ほとんどの人が気づきません)。そこに「動いている」という表示を出すと、通行する二割ほどの人が気づきますが、その多くは周りの動かない模型まで動くのではないかと熟視するようになり、さらに同伴者を連れてきて動いたことを伝えようとすることもあります。



図5 動く恐竜: 脇腹が膨らんだり、凹んだり。息をしています。



図6 動く両生類: じっとしていると疲れるので、動きます。

おわりに

私たちは知り得た情報を胸に収め続けることがなかなかできません。特に、インパクトを受けたことについては、他の人と情報を共有しようとして、博物館に来館する人たちの3割ほどが、いわゆる「ロコミ」によって来館したことが聞き取り調査などで分かっています。博物館の来館者数が平成18年から10年間、急増するのではなく毎年徐々に増加していった原因の一つとして、この「ロコミ」効果が挙げられます。それを引き出したのが常設展示であることも分かっています。各年度の来館者数の推移をグラフにすると、インフルエンザの感染者数の時間経過ごとの推移に良く似ています。それはまるで来館者が常設展示室で「化石病」に感染し、地元でその菌をうつされた人が来館して新たな感染者になる連鎖反応が起きているような気がします。また、インパクトを受けやすい初回来館者が、全来館者の七割を維持していることもこの現象を助長しているように思います。しかし、今の博物館の展示ではインパクトのある情報伝達に限界があります。パネルやマルチメディアのほかにも音声ガイドや展示解説員による解説ツアー等に創意工夫が必要となっています。知的興奮を誘発するような本当の面白さは、まだ標本の中に眠ったままです。それを発見し、発掘し、来館者と感動を共有していくのが、私たち博物館に関わっている者の仕事の一つではないかと思うのです。



恐竜博物館カレッジの

ご案内

2018年4月～7月

※所定の方法にて、行事名、氏名、年齢、住所、電話番号を、博物館までご連絡ください。開催日の一ヶ月前から受付を開始し、定員に達し次第締め切らせていただきます。ただし、申し込み多数の場合は抽選となる場合があります。

※行事の日程、内容等につきましては、変更になることがあります。

※当館Webサイトの行事案内ページ (<https://www.dinosaur.pref.fukui.jp/event/>) もご覧ください。

※10回参加いただけると「恐竜博物館カレッジ認定証」を発行いたします。(年度をまたいで可)。

特別展関連行事

■特別展講演会「獣脚類恐竜をどうやって鳥にするか：ネオベナトル、フクイラプトル、羽毛恐竜の情報から(仮題)」

日時/7月29日(日) 14:00～15:30

内容/獣脚類から鳥類へどのように進化してきたか、特別展の目玉の1つであるネオベナトルや、その近縁種で福井から見つかったフクイラプトルなどから得られる情報を取り上げながら紹介します。

講師/イギリス・エディンバラ大学准教授
ステファン・ブルサッテ 博士

場所/講堂

※申し込み不要です。

■特別展ツアー「特別展の展示解説」

内容/特別展の素晴らしい標本について、詳しく解説します。

・第1回/7月14日(土) 13:00～14:00

・第2回/8月25日(土) 13:00～14:00

・第3回/9月15日(土) 13:00～14:00

・第4回/10月14日(日) 13:00～14:00

担当/服部 創紀 場所/特別展示室

対象/20名

申込/電話、FAX、E-mailにて

パブリックコース

博物館セミナー

場所/研修室

申込/電話、FAX、E-mailにて

■福井のユニークな恐竜たち

日時/4月15日(日) 13:00～14:30

内容/福井県では、30年以上に渡り、恐竜化石発掘調査を行ってきました。そこから発見された福井の恐竜たちは、ユニークな特徴を持っています。どのような恐竜であるのかを紹介します。

講師/柴田 正輝

■カメと進化の耳より情報

日時/5月13日(日) 13:00～14:30

内容/意外にも生物の進化と深く関係している耳。カメの進化を中心に、耳にまつわる最新のトピックについて紹介します。

講師/藺田 哲平

■恐竜が生きた時代の植物たちパート2

～植物化石の学名と分類～

日時/6月17日(日) 13:00～14:30

内容/恐竜時代の植物化石の学名はどのようにつけられているのか？学名の意味は？植物の分類は？など実際に化石を見ながら学びます。

講師/寺田 和雄

■爬虫類や鳥類の内耳について

日時/7月15日(日) 13:00～14:30

内容/動物が生きていくうえで聴覚や平衡感覚はとても重要です。そして内耳はこれらの感覚と深く関わりのある器官です。本セミナーでは爬虫類や鳥類の内耳についてお話しします。

講師/河部 壮一郎

ジュニアコース

博物館自然教室

場所/実習室

対象/小学生以上(小学生は保護者も参加) 20名

申込/往復ハガキ、E-mailにて

■なぞの恐竜を研究しよう

日時/4月22日(日) 13:00～15:00

内容/博物館には恐竜の全身骨格が並んでいますが、発掘現場で見つかるのは体の一部だけという場合がほとんどです。断片的な標本から、どんな恐竜のどの部分の骨なのか、一緒に考えてみましょう。博物館の展示の中に、答えがかかれています。

担当/関谷 透

■鳥の骨に残る恐竜の痕跡

日時/5月20日(日) 13:00～15:00

内容/1億年以上かけて祖先の獣脚類恐竜から進化した結果、鳥の体は祖先とはかけ離れたものになりました。しかし、その骨をよく観察すると、鳥の体に残された恐竜の痕跡が見えてきます。恐竜と鳥の骨を見比べながら、その痕跡を探してみましょう。

担当/今井 拓哉

■いろんな石を見くらべてみよう

日時/6月10日(日) 13:00～15:00

内容/いろいろな石の、磨いた面や薄く切ったものを観察して、どのようなつくりをしているか、見くらべてみましょう。

担当/湯川 弘一

■恐竜の骨を切ってみて

～骨からわかる恐竜の成長～

日時/7月1日(日) 13:00～15:00

内容/恐竜の骨からどのようなことがわかるのか？実際に観察して、恐竜の成長について勉強します。

担当/柴田 正輝

キッズコース

恐竜ふれあい教室

対象/4歳～小3の親子 15組

場所/実習室

申込/往復ハガキ、E-mailにて

■親子で化石のレプリカをつくろう！

日時/4月8日(日) 13:00～14:00

内容/石こうを使って、アンモナイトなどの化石の複製をつくります。

担当/千秋 利弘

■親子で化石のレプリカをつくろう！

日時/5月27日(日) 13:00～14:00

内容/石こうを使って、アンモナイトなどの化石の複製をつくります。

担当/千秋 利弘

■親子で化石のレプリカをつくろう！

日時/6月24日(日) 13:00～15:30

内容/石こうを使って、アンモナイトなどの化石の複製をつくります。

担当/千秋 利弘

■親子で恐竜模型をつくろう！

日時/7月22日(日) 13:00～15:30

内容/恐竜の骨格をもとに、粘土を使って恐竜を復元します。

講師/恐竜造形家 荒木 一成 先生

申込/往復ハガキ、E-mailにて。受付は6/22～29、抽選にて参加者に通知

ギャラリートーク開催

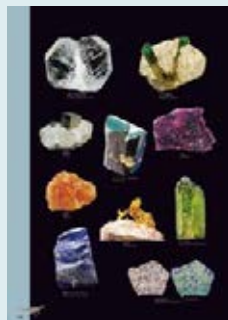
当館研究スタッフが、展示標本を前に30分程度のお話をします。開催日時、集合場所等、当館ホームページのイベント案内をチェックして下さい。



福井県立恐竜博物館 展示解説書

販売中

福井県立恐竜博物館の展示解説書は、「恐竜の世界」「地球の科学」「生命の歴史」の三部構成で、館内の展示を詳しく解説しています。子どもから大人まで楽しく読むことができ、また、研究にも適した、恐竜博物館の魅力を凝縮した一冊です。最新の展示に対応した新版です。ぜひお買い求めください。



注文方法

お求めの冊数、送付先住所を明記の上、代金と送料とを現金書留にて当館までお送りください。送料は1冊の場合560円です。お申込み、お問合わせは恐竜博物館まで。

A4 218ページ オールカラー

1,600円

